

[短 報]

静岡市興津川流域から得られたアカイシサンショウウオ

佐々木彰央¹⁾

A New Record of *Hynobius katoi* from the valley of the Okitsu River in Shizuoka City

Akio SASAKI¹⁾

はじめに

アカイシサンショウウオ *Hynobius katoi* はサンショウウオ科 Hynobiidae に属する日本固有の流水性小型サンショウウオで、環境省は本種を絶滅危惧IB類に指定している(松井, 2014)。分布についてはこれまで長野県東南部と静岡県西北部に位置する赤石山脈の南端に沿った狭い範囲と考えられてきたが(松井, 2004; Matsui et al., 2004; 北野・四方, 2009; 國領, 2010; 松井, 2014), 新たに静岡市清水区興津川流域でも本種を確認したので報告する。

確認地点と方法

本標本個体は2014年3月21日に静岡県静岡市興津川水系上流の山嶺(標高830 m)にて林道脇の転石下(幅約30 cm, 高さ約15 cm)に潜んでいたところを採集した(図1)。周辺はスギ *Cryptomeria japonica*・ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の混生する人工林で、林床にはクマザサ *Sasa veitchii* が少数みられた。

計測項目および方法はMatsui et al. (2004) に準じて、体長(SVL), 頭長(HL), 頭幅(HW), 胴長(TRL), 尾長(TAL), 尾高(TAH)を電子

ノギス(Mitutoyo Corporation 製 500-302)を用いて0.1mm単位で測定した。また、肋条数と前後肢の指の数についても計数し、性別については松井(2014)に従い判断した。さらに、口腔内の鋤骨歯列についても観察した。標本は10%ホルマリンで固定した後に70%エタノールによって保存し、ふじのくに地球環境史ミュージアムにSPMN-g-2502として登録した。

文章中で用いるサンショウウオの体部位に関する呼称は岩澤・倉本(1996)に従った。

結 果

本標本個体の各部計測結果は表1に示した。肋条数は13本、前肢の指の数は左右各々4本、後肢は5本であった。前後肢を体側に沿って折り返したところ、前後の指間に1肋条分ほどの隙間がみられたことからオスであることがわかった。鋤骨歯列は幅広く浅いU字形を呈し、内鼻孔の内縁に並んで始まった外枝は短く、左右の歯列は並行せずに後方へ伸びていた(図2)。生時の地色は茶褐色で白色斑は大きく(図1)、斑紋は腹面を中心に全身に分布していた(図3)。ホルマリン固定後は地色がやや青色に変色したが、白色斑に目立った変化はみられなかった。

¹⁾ NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク大谷事務所, 〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷 5762
Network for Shizuoka Prefecture Museum of Natural History, 5762, Ohya, Suruga-ku, Shizuoka City,
Shizuoka 422-8017, Japan



図1 興津川流域で確認された時点のアカイシサンショウウオ
Hynobius katoii (SPMN-g-2502)

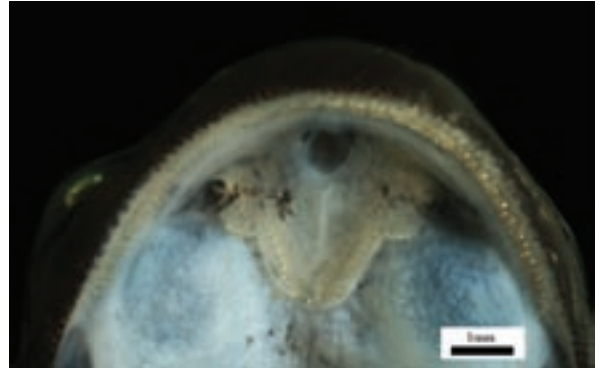


図2 *Hynobius katoii* (SPMN-g-2502) の鋤骨歯列



図3 *Hynobius katoii* (SPMN-g-2502) の腹面（上）と背面（下）

表1 Matsui et al. (2004)で示しているオスの *Hynobius katoii* と SPMN-g-2502 の比較 (SVL は mm 単位表記, その他の部位は SVL との比率によって表記されている)

	SVL(mm)	HL(%)	HW(%)	TRL(%)	TAL(%)	TAH(%)
Matsui et al., 2004 (n=12)	58.4 ± 3.3 (53.8-64.0)	24.6 (24.3-25.2)	16.2 (15.3-16.7)	75.4 (74.8-75.7)	73.6 (70.7-82.6)	9.7 (7.8-10.7)
SPMN-g-2502	54.1	24.3	17.1	75.2	55.0	9.0

考 察

本標本個体は体長, 頭長, 胴長, 尾高, 肋条数, 前後肢の指数, 鋤骨歯列の形状が Matsui et al. (2004) で示されているアカイシサンショウウオの成体のオスと一致していた (表1)。

一方で, 頭幅がやや広く, 尾長が短く, 斑紋の分布が腹部を中心に密にみられた点については, ブチサンショウウオ *Hynobius naevius* やコガタブチサンショウウオ *Hynobius yatsui* の特徴 (Matsui et al., 2004; 高田・大谷, 2011; 松井, 2014) と類似するが, 尾長の短さは外傷による切断の後に再生した疑いもあり, さらに, 有尾類のいくつかの種では繁殖期に頭幅, 尾高, 尾長がいちじるしく変化することが知られているため (岩澤・倉本, 1996), 状況により長さが変動する可能性がある。よって, 本標本個体はアカイシサンショウウオにおける種内変異の一例として判断した。

ただし, 色彩について Matsui et al. (2004) や松井 (2004), 松井 (2014) は, 成体のアカイシサンショウウオにおいて白色斑が少なく, 腹面には斑紋がほとんどみられない (松井, 2004) という特徴を示しており, この点が本標本個体の特徴 (図3) とは大きく異なっている。このことから, 今後は本標本個体の遺伝子解析をおこなうと共に, 興津川水系周辺に生息する本種の標本数を増やし, 長野県東南部と静岡県西北部の集団との比較をおこないたいと考えている。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 静岡県自然史博物館

ネットワークの三宅 隆氏, 板井隆彦氏, 武内美沙子氏には助言および調査協力をしていただいた。また, 匿名の査読者には的確なご指摘をいただいた。こられの方々に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 岩澤久彰・倉本 満 (1996) 動物系統分類学9 (下 A1) 脊椎動物 (II a1) 両生類 I. 中山書店, 東京, 492p.
- 北野 聡・四方圭一郎 (2009) 飯田市遠山川流域におけるアカイシサンショウウオの記録. 長野県環境保全研究所研究報告, 5号, p. 113-115.
- 國領康弘 (2010) アカイシサンショウウオ. NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク編: しずおか自然史, 静岡新聞社, 静岡, p. 182-183.
- 松井正文 (2004) アカイシサンショウウオ. 静岡県自然環境調査委員会編: まもりたい静岡県の野生生物 動物編, 羽衣出版, 静岡, p. 120.
- 松井正文 (2014) アカイシサンショウウオ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 -, 3 爬虫類・両生類, ぎょうせい, 東京, p. 98.
- Matsui, M., Y. Kokuryo, Y. Misawa and K. Nishikawa (2004) A New Species of Salamander of the Genus *Hynobius* from central Honshu, Japan (Amphibia, Urodela). Zoological Science, v. 21 (6), p. 661-669.
- 高田榮一・大谷 勉 (2011) 原色爬虫類両生類検索図鑑. 北隆館, 東京, 292p.

